

新型コロナウイルス 関連情報

(4月20日現在)



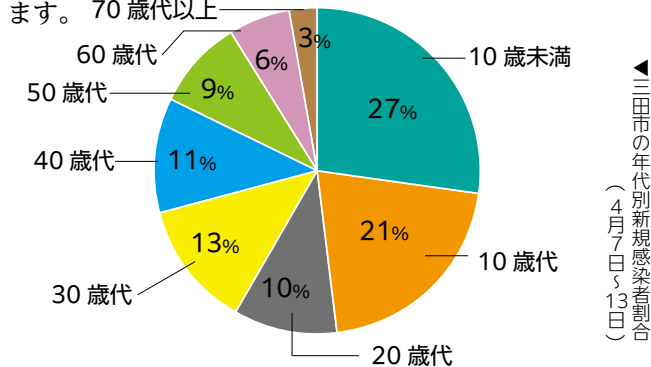
◀市HP
(新型コロナウイルスワクチンの接種)

TOPICS_01

特にお知らせしたいこと

感染再拡大に注意してください

市内の新規感染者数は、若年層を中心に増加傾向にあります。強い感染力を持ったオミクロン株が中心となった第6波では、60代以上の割合が減少し10代未満の割合が増加しました。感染を防ぐためには、次の行動が重要です。引き続きの感染防止策の徹底をお願いします。70歳代以上



◀三田市の年代別新規感染者割合
(4月7日～13日)

■ リスクの高い行動の回避



混雑を避け、少人数での行動を



体調が悪い場合は医療機関へ事前に連絡の上、受診を

■ 基本的な感染防止策の徹底



こまめな手洗いや手指消毒、3密(密閉・密集・密接)の回避などの徹底継続を



会話の際は、原則マスク着用の徹底を

■ ワクチンの接種

ワクチン接種には発症・重症化の予防効果が期待されています。接種を希望する人はお早めに。



市内医療機関と集団接種でワクチン接種の受付を継続中



一部の市内医療機関では、当日予約の受付や土曜の接種も実施中



◀(個別接種)
市HP



集団接種予約や接種券紛失の場合は下記専用コールセンターへ



◀(集団接種)
市HP

■ 三田市新型コロナウイルス ワクチン専用コールセンター

☎ 0120-274-008 FAX 0120-263-047

※受付時間：日曜～金曜 9時～17時30分(土曜休)

新型コロナウイルス罹患後の症状

新型コロナウイルス感染症にかかってから3カ月以内に、療養中にみられた症状や新たな症状が出現し、少なくとも2カ月症状が継続しているものを「罹患後症状」といい、現在研究が進められています。未だ不明な点もあり、多くの人は罹患前の健康状態に戻っていますが、20～30代でも発症するなどどの年代でも確認されています。罹患後症状の治療は対処療法が中心となります。長引く症状がある場合には、かかりつけ医や診療科目の医療機関にご相談ください(一般診療と同様に、診療費の自己負担が発生)。

【代表的な罹患後症状】倦怠感、関節痛、筋肉痛、咳、息切れ、胸痛、記憶障害、集中力低下、不眠など

■ 兵庫県新型コロナ健康相談コールセンター

☎ 078-362-9980 FAX 078-362-9874

※24時間受付(平日、土・日曜、祝日)

ワクチン接種後の副反応

接種後には、注射した部位の痛み、疲労、頭痛、悪寒などの症状がみられることがありますが、こうした症状の大部分は接種から数日以内に回復するため、まずは自宅で様子をみてください。我慢できない程の痛みや発熱が続き、医療機関を受診すべきかどうか迷う場合は、かかりつけ医または下記専用相談窓口にご相談ください。ごくまれに接種後の心筋炎や心膜炎が報告されています。多くが軽症ですが、接種から数日以内に胸痛、動悸、息切れ、むくみなどの症状がある場合は速やかに医療機関にご相談ください。

■ 兵庫県新型コロナワクチン専用相談窓口

☎ 0570-006-733 FAX 078-361-1814

※受付9時～21時、医療機関の紹介は行っていません

接種を「受ける」「受けない」は個人の選択です

ワクチン接種を受けるには、本人の意思に基づく同意が必要です。受ける人の同意なく、接種が行われることはありません。家族や職場の人など身近な人に対しても、接種を受ける、受けないという個人の選択を強要したり、差別的な対応をとらないようにしましょう。

市立小・中学校 学校のあり方を共に考えましょう

市教育委員会では、三田市立小中学校の小規模化に伴うさまざまな課題について、市民と教育委員会が協働して取り組む指針として、「市立学校のあり方に関する基本方針」を平成30年7月に策定しました。基本方針は、今後の市立小中学校の適正規模、適正配置について方向性を示し、まずは課題の大きい中学校の再編から取り組んでいます。

今後は、小規模化が進んでいる小学校も含め、全市的に検討を始めていきます。



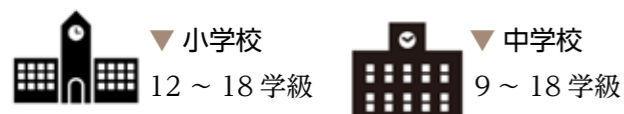
市立学校のあり方に関する基本方針

■ 学校のあり方について今後の進め方

学校規模などを基準とし、検討対象となる学校の範囲をエリアごとに示し、今年度から順次、各学校単位で意見交換、協議を行う場である「(仮称)学校のあり方検討会」を設置します。

検討会では、学校の小規模化に伴う課題や望ましい教育環境などについて、保護者や地域の皆さんと協議を重ね、検討を進めていきます。

■ 基本方針で示す望ましい学校規模(学級数)



■ 検討対象となるエリア

◇ フラワータウン内の小・中学校

中学校：狭間中、富士中
小学校：武庫小、狭間小、富士小、弥生小

◇ 藍・長坂中校区内の小・中学校

中学校：長坂中、藍中
小学校：本庄小、広野小、藍小、つつじが丘小

◇ 上野台・八景新設中学校区内の小学校

志手原小、小野小、高平小、母子小、松が丘小

■ 「学び合い、高め合える」教育環境を

変化の激しい時代を生き抜くためには、どのような状況下でも、自分で考え判断して行動し、社会と関わりを持ちながら、豊かに生きることができ子どもを育てることが求められています。

市教育委員会では、このような観点から、子ども同士が「学び合い、高め合える」教育環境を保障するため、ある程度の学校規模(小学校では1学年2～3学級、中学校では1学年3～6学級)が望ましいと考えています。子どもの選択の幅を広げるとともに、多様な個性とふれ合い、社会性を育み、切磋琢磨しながら成長していくことができる教育環境を目指して取り組んでいきます。

■ 望ましい学校規模でできること

- ① 学校活動の選択が広がる
児童生徒数、教員数が増えることにより、学校生活のあらゆる場面で、活動内容の選択の幅が広がります。
- ② 学校行事の活性化
運動会、体育大会、音楽会や文化祭、自然学校などの学校行事の活性化が図れます。
- ③ 部活動の確保
部活動において、ある程度の部活数・部員数・顧問数が確保できます。
- ④ クラス替えによる効果
すべての学年でクラス替えをすることにより、人間関係の固定化、序列化などを防ぐことができます。
- ⑤ 教員数の確保
必要な教員数を確保できるため、学校運営が組織的に余裕を持って行えます。また、各学年に複数の担任がいることで、指導の充実が図れます。

うえのだい はっけい 上野台中学校・八景中学校の 再編統合が決定しました

「三田市立学校再編計画(第1次計画)【平成30年12月策定】」において、行政案として示していた「上野台中学校と八景中学校を統合し、八景中学校区内に新設する」ことについて、令和元年12月から「*上野台および八景中学校再編地域協議会」を設置しました。

地域協議会では、行政案の是非や課題などについて、全体会(4回)、各校区での部会(各5回)の協議を重ねるとともに、対象校区全世帯へのアンケート調査などを実施し、令和3年12月に統合にあたって留意する事項も含めた「最終まとめ」を取りまとめました。

市と市教育委員会では総合教育会議において、地域協議会の「最終まとめ」を尊重し、両中学校の再編統合について、新設校の場所や開校までのスケジュールなどを具体的に検討することを決定しました。今後、市教育委員会では市と連携して取り組みを進めていきます。

※「上野台および八景中学校再編地域協議会」
各校区の保護者、地域の代表および中学校長で構成

地域協議会の「最終まとめ」の概要

※内容は一部要約して掲載しています

上野台および八景中学校再編地域協議会が取りまとめた「最終まとめ」の概要を紹介します。

1 行政案の是非について

八景中と上野台中の課題を解決するために、基本的には「八景中と上野台中を統合し、八景中校区内に新設すること(行政案)」に賛成する。ただし、「2 統合にあたって留意すべき事項」を最大限尊重すること。

2 統合にあたって留意すべき事項

(1) 新設校の場所

- ① 両中学校の中間付近で、八景中の生徒が徒歩または自転車で通学できる場所
- ② 徒歩・自転車・バスのいずれの方法でも生徒が安心して通学できる場所

(2) 通学手段および通学の安全確保

- ① 教育活動に十分配慮して、学校の時程に沿った路線バスまたはスクールバスの確保
- ② 上野台校区はバス通学(路線バス、スクールバス)を基本とし、現在の遠距離通学補助基準(4km以上)を柔軟に運用
- ③ 徒歩や自転車通学の生徒が安全に通学できるよう、通学路の安全を確保

(3) 統合までの子どもへの支援

- ① 統合までの間、小規模校である上野台中の生徒への十分な支援(通学手段の確保、教職員の配置、合同部活動等)を行うこと。
- ② スムーズな統合となるようにできる限り盛んな学校間の交流を行うこと

3 統合決定後に協議すべき事項

「再編準備会(仮)」を開催し改めて協議する項目

- ① めざす学校像
- ② 子どもの心のケア
- ③ 具体的な通学手段および通学の安全確保
- ④ 地域への影響(活性化など)
- ⑤ 学校跡地の活用
- ⑥ 少人数学級やICT化など今後の状況変化への対応

4 要望事項

統合決定後、新設校の場所や開校までのスケジュールなどを早急に示し、スピード感を持って取り組んでほしい。



再編計画

■ これまでの経過

平成30年7月	三田市立学校のあり方に関する基本方針を策定
平成30年12月	三田市立学校再編計画(第1次計画)を策定
令和元年12月	上野台および八景中学校再編地域協議会を設置
令和元年12月～令和3年12月	全体会(4回)、各校区での部会(各5回)を実施
令和3年7月	中間まとめ報告会を実施
令和3年10月	対象校区の全世帯にアンケートを実施

今さら聞けない！？スマホのあれこれ 「スマホ教室」実施中！

今や、8割以上の世帯でスマートフォンなどを保有*していると言われています。メール、カメラ、地図アプリの活用や2次元コードの読み取りなど、さまざまな機能があり便利なスマートフォン。スマホ教室を受講し、便利な機能を使いこなしてみませんか。市内で実施しているスマホ教室をご紹介します（受講無料）！
問い合わせ＝スマートシティ推進課（559-5096
FAX 563-1366）



※出典：三田市「さんだ里山スマートシティ」に関するアンケート調査結果報告書

一人でじっくり教わりたい！

個人で受講したい人は携帯電話ショップへ。通信事業者を問わず自分のスマホで教えてもらえます。持っていない人には貸し出しもできます。



実施店舗名	受講人数	申し込み・問い合わせ
au ショップ三田 (南が丘 1-22-7)	1 人以内	0800-700-1688 (フリーコール)、 563-7710(有料)
au ショップ三田 ウッディタウン (すずかけ台 3-2)	2 人以内	0800-700-1689 (フリーコール)、 561-2323(有料)
ソフトバンクイオン三田 ウッディタウン 2 番館 1 階 (けやき台 1-6-2)	2 人以内	564-8830
ドコモショップ 三田ウッディタウン店 (けやき台 1-7)	3 人以内	0120-327-782 (フリーコール)
ドコモショップ新三田店 (福島 2-5)	4 人以内	0120-033-888 (フリーコール)

みんなで一緒に教わりたい！

公民館、自治会館など、地域の集まりにスマホ講師の派遣も行っています。



■ au ショップ 三田

0800-700-1688、563-7710
最少催行人員 = 5 人以上 (最大 20 人まで) ※開催希望日 2 カ月前までに要申し込み

■ ソフトバンク講師派遣 (申し込みフォーム) ▶

最少催行人員 = 10 人以上 (最大 20 人まで) ※開催希望日 2 カ月前までに要申し込み



■ au ショップ三田ウッディタウン

0800-700-1689、561-2323
最少催行人員 = 5 人以上 (最大 10 人まで) ※開催希望日 2 カ月前までに要申し込み

■ ドコモショップ三田ウッディタウン店 0120-327-782、新三田店 0120-033-888

最少催行人員 = 応相談 ※端末貸し出しは 1 カ月前までに要予約

申し込み方法など

申し込み・問い合わせ＝スマホ教室実施各店舗へお電話ください（市役所では受け付けていません）。申し込みの際は「広報さんだを見て申し込みました」とお伝えください。

※いずれの教室も事前予約が必要（電話が繋がりにくいことや希望日時を予約できない場合があります）。

※教室中にスマホの販売は行いません。受講者の同意を得た場合に限り、各ショップからアフターサポートなどの連絡をする場合があります。



「三田市 LINE 公式アカウント」もぜひ登録ください！

検討委員会と市民意見交換会の結果

令和4年3月25日、昨年6月に神戸市と立ち上げた「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」から、検討委員会の意見を取りまとめた報告書が三田市と神戸市に提出されました。

今後は、報告書を最大限尊重して、三田市、神戸市、済生会兵庫県病院の3者で協議を進め、方向性を判断します。また、16頁以降で紹介している「市民意見交換会」でいただいたご意見も参考にし、将来にわたって市民が安心して救急医療をはじめとする急性期医療を受け続けることができるよう、三田市としての基本構想の素案にあたる方針を今年度早期に提示し、丁寧に説明します。



▲ 委員会会議録

■ 検討委員会による急性期医療確保方策のまとめと方向性

- ・北神・三田地域において、必要な急性期医療を将来にわたって提供していくためには、急性期医療確保方策として、「再編統合」が最も望ましい。
- ・再編統合の際には、現在の利用者にとって交通アクセスの利便性に変化が生じるため、両病院の中間地点が望ましい。

再編統合が望ましい理由

アクセスの利便性に変化は生じるが、次の利点により、現状維持など他のケースと比較して適切。

- 医療機能・医師確保の視点…医師をはじめとする医療資源の集約化により医師確保の可能性が高く、将来の医療需要に対応できる。
- 施設整備の視点…充実した医療機能を持つ新病院に集中的に投資できる。
- 経営の視点…多くの医療需要に対応でき、収益の向上が見込まれる。また、有利な起債（借入）や補助金等が活用できる。

■ 検討委員会が示す再編統合に向けての検討事項

再編統合の検討を進めるにあたり、次の6点についてさらなる調査や検討を進める必要があると示されました。

① 新病院の詳細な医療機能

- ・北神・三田地域の急性期医療需要に対応するため、必要な医療機能の強化について、診療機能、診療科、医療機器・設備、医師数などを具体化していく必要がある。

② 新病院の病床規模

- ・両病院が対応すべき入院患者数の推計は、2035年に1日平均406人となるため、少なくともこれに対応できる病床規模が必要である。
- ・診療科の充実による患者数の増加や医療技術の進歩に伴う入院日数の短期化の影響を加味すれば、400床～450床程度と考えられる。

③ 急性期医療を支える継続的な医師確保

- ・必要な医療機能に対応するには、医療人材の育成を担う大学との連携や人材交流に加えて、地域の基幹病院となり、研修医や専攻医などの若手医師を確保していく必要がある。

④ 新病院の立地及び交通アクセスの利便性確保

- ・救急搬送への円滑な対応を考えると幹線道路等に面し、臨海部の高度急性期病院との連携を鑑みると高速道路等にアクセスしやすい場所が望ましい。
- ・高齢者の運転免許証の返納等を考慮し、送迎バスや路線バスの経路の調整について検討が必要である。

⑤ 新病院の収支見通し（新病院の経営形態、整備・運営手法含む）

- ・新病院の収支計画の策定にあたっては、北播磨総合医療センターや加古川中央市民病院の事例において再編統合により収支改善が図られていたが、その他の再編統合事例も参考にしながら、安定した経営を行うことができるよう検討する必要がある。

⑥ 現病院の跡地活用

- ・現病院の跡地医療並びに跡地の有効活用については、再編統合後の新病院と連携し、高齢化に伴い需要の増加が想定される回復期医療や慢性期医療、緩和ケア、在宅医療の充実に充てるなど、地域医療構想の実現に向けた検討が必要であること。

項目別の意見内容

※意見は一部抜粋・要約して掲載しています

(1) 三田市民病院と済生会兵庫県病院の再編統合について

意見①「再編統合が必要」	意見③「現状の維持」
市の説明を聞いて、改めて急性期医療病院のあり方がわかった。今のままでは、市民病院も済生会兵庫県病院も急性期医療を担えなくなるという説明であった。新たな整備場所は決まっていなかったことだが、再編統合は必要だと思う。	どこにどのように病院を建てるかなど、具体的なことを明らかにせずに再編統合という結果だけを一方的に市民に押し付けようとする進め方に反対である。また、市民病院と済生会兵庫県病院を再編統合するという考え方にも反対である。
意見②「救急対応できる病院が必要」	意見④「近くに救急病院があると心が休まる」
再編統合がどうしても必要だと思う。個人的に体調を崩して市民病院に行ったが、内科の医師はいなかったため、急遽、他の病院に搬送された。医師から、もう少し診るのが遅かったら命が危なかったと言われた。地域に休日でも救急対応できる病院が必要であり、再編統合は致し方ないと思う。	近くに救急医療の病院があるということが、心休まる場所である。なぜ、2つの病院が1つになれば良くなるのか。それぞれが十分な役割を果たせば良いのではないか。

(2) 再編統合した病院の整備場所について

意見①「新病院は三田市内に」	意見②「新病院は大きな病院を望む」
再編統合して急性期医療病院を建てるのであれば、神戸市北区ではなく三田市に整備してほしいというのが市民の願いである。	患者の立場にとっても、大きな病院になることは望ましい。我々の生活圏は北神戸一体だと思っている。私個人としては、新病院の整備場所が三田市でないといけないというこだわりはない。費用も少なくして再編統合がやりやすい方法で進めてもらいたい。

(3) 医師確保などについて

意見①「医師・市民に選ばれる病院へ」	意見②「医師確保の方策が再編統合ありきに疑問」
長い間公立病院で働き、医師のことをよく知っているが、医師は病院を選んでいる。医師を確保するためには、選ばれる病院になるべきだ。そして、もう一つは市民に選ばれる病院になることが大切である。選ばれないと患者数が減っていく。	医師の勤務間インターバルや28時間連続勤務に関する資料を見ると医師確保は大変だと思う。しかし、大変なのは大病院でも条件は同じはずであり、再編統合ありきという姿勢に疑問を感じる。

(4) 市民への説明について

意見①「もっと市民が現状を知るべきだ」	意見②「もう少し簡単に説明してほしい」
市の説明を聞いて、よく理解できた。もっと市民が知らないといけないのではないかなと思う。	一般市民の大半は、難しいことを言われてもわからないので、もう少し簡単に説明してほしい。

(5) 交通アクセスについて

意見①「交通アクセスの向上を」	意見②「通院しやすい交通手段の議論を」
再編統合して新しい病院が遠くなってしまい、受診できないということにならないよう、バスの便を増やしてほしい。	現市民病院も交通アクセスが非常に厳しい状況である。再編統合で、さらに遠くなるのであれば、寄り合いバスなど交通手段も議論してほしい。

市民意見交換会
「市民病院のこれから」の結果報告

三田市では、三田地域における急性期医療を将来にわたって確保できるよう検討を重ねるなか、市民の皆さんのご意見を参考にするため、「市民病院のこれから」をテーマに市民意見交換会を令和4年1月15日から3月13日まで計25回実施しました。

意見交換会で寄せられたさまざまなご意見を紹介します。ご意見は、三田市として方向性を検討する際の参考にさせていただきます。



市ホームページ

各地区の開催状況

開催にあたり、広報誌「広報さんだ」、市ホームページ、自治区・自治会の回覧で開催周知を図り、計157人が参加しました。

※各地区2回以上の開催日を設定しました。

地区名	回数	人数	会場
三田地区	2	5	さんだ市民センター
三輪南部地区	4	8	まちづくり協働センター
三輪北部地区・小野地区	1	11	有馬富士共生センター
広野地区	1	5	広野市民センター
高平地区	2	5	高平ふるさと交流センター
藍地区	3	20	藍市民センター
本庄地区	1	10	ふれあいと創造の里
フラワータウン地区	5	38	フラワータウン市民センター
ウッディタウン地区・カルチャータウン地区	6	55	ウッディタウン市民センター
計	25	157	

参加者からの主な意見

参加者の意見の傾向を把握するため、主な意見を項目別に分類しました。※意見交換会における意見の件数を厳密に集計したものではありません。

項目	件数	項目	件数
再編統合全般	76	財政負担	13
再編統合後の整備場所	31	医療機能	7
医師確保など	26	現市民病院の跡地活用	7
市民への説明	21	再編統合後の経営形態	3
病院への交通アクセス	16	再編統合のスケジュール	2